

# 事例1

## 施設に入所したいが、身元保証人がいない

独居の男性。親族とは疎遠状態。脊柱管狭窄症の術後後遺症のため膝の調子が悪い為、施設への入所を考えているが、その際の身元保証人を頼める人がいなくて困っている。  
その他、不動産の売却や遺言書の作成も希望している。



### ご本人情報

[年齢] 71歳

[認定] 要支援1

[病歴] 腰部脊柱管狭窄症  
頰椎性脊髄症  
急性緑内障

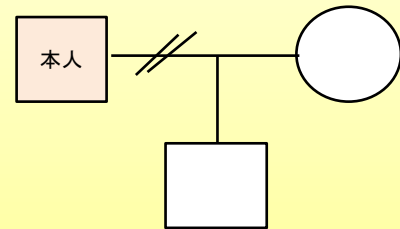
[ADL] 自立

[経済状況] 年金

[本人の意向]

- ・75歳までに諸々片付けて、施設に入りたい
- ・遺産を前妻・子供に渡したくないので、専門家に任せて対策を講じたい

### ご家族の状況



- ・一人暮らし
- ・親族はいるが疎遠
- ・持家あり(戸建)

### 必要とされている支援

施設入所の際の  
身元保証

遺言書作成支援

不動産売却支援

死後事務委任

## 支援内容と動き

1. 地域包括支援センター職員との同行をいただき、アセスメント訪問を実施

2. 必要な支援を整理し、ご説明。  
まずは介護施設や病院への入所・入院の際に必要な身元保証契約を締結

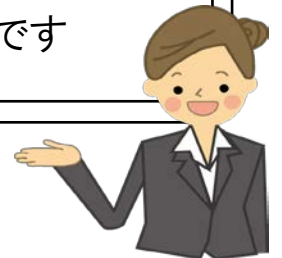
3. 不動産鑑定等を行い、資産状況を把握。  
今後20～25年の収支シミュレーションを作成し、最適な施設をご紹介します

4. 公正証書遺言書の作成を支援。  
本人の万が一に備え、死後事務委任契約を締結し、喪主代行から納骨支援・永代供養までを受任

5. お父様から受け継いだ美術品等の鑑定を、専門家に依頼、適切に処理

6. 将来、認知症になるのでは？との不安を訴えていたので、任意後見契約を締結

地域包括支援センターのケアマネジャーや主治医と連携し、『報告・連絡・相談』を密に行いながら、現在も支援を継続中です



## 支援のポイント

- ◎「75歳までに生前整理を終えたい」という本人の意向を実現するために、今やらなければならない事、将来的に起こりうる問題に備えて、専門家によるアドバイスを実施
- ◎金銭面も含め、安心してお暮しになれるライフプランの作成
- ◎ライフプランに沿った継続的支援
- ◎本人が安心して最期を迎えられるような支援